

PICK UP!

2020年度地域協働授業成果発表会開催!

2021年1月21日(木)、22日(金)の両日にわたり、2020年度の地域協働授業成果発表会を開催しました。例年、前期と後期に分けて行う成果発表会ですが、今年度はコロナウィルスの影響で後期のみで開催となりました。

今年度より開催場所を新校舎中央棟の大講義室・アカデミックモジュールに移し、前年と同じくポスターセッション形式で行いました。また今回より、開催後2週間にわたるポスター展示を実施し、新しくポスター賞も設けました。



参加者からは「他のゼミがどのようなことを1年間していたのかが分かって面白かった。」「もう少し、積極的に説明をして欲しかった。」「コロナ禍でできることが少ない中、活動していて素晴らしいと思った。」「どれもポスターがうまくなるとめられていて、興味深いものばかりだった。」などの声が寄せられました。



PICK UP!

射水市×富山県立大学×アランマール オレンジキャンペーン in 射水〜がんばる女性をみんなで応援〜

3月8日の国際女性デーに合わせ、本学と射水市、また市内に拠点を構えるアランマール女子ハンドボールチームが協働し、「オレンジキャンペーン in 射水〜がんばる女性をみんなで応援〜」を3月2日〜3月8日に実施しました。これはSDGs 5「ジェンダー平等を実現しよう」のロゴカラーであり、アランマールのチームカラーでもあるオレンジ色をPRすることで、女性のエンパワーメントやジェンダー平等を促進し、誰もが過ごしやすいまちづくりの一環とすることを目的としたものです。

週末の6日(土)、7日(日)は特設展示として、クロスベイ新湊にて、様々な展示を行い、本学からは男女共同参画推進本部による「女性研究者の写真展」のほか、学生団体COCOSによる参加型メッセージ展を出展。7日にはグルメや手芸品のマルシェなど同時開催イベントも多数行われた中、地域協働支援室は環境市民プラットフォームとやまと協働し「3・11復興支援×オレンジ



[CONTENTS]

■ピックアップ!	1
■2020年度地域協働活動報告	2〜5
■学生団体活動紹介	6〜9
■地域志向取組み	10
■成果発表会出展一覧	11
■COCOA研修開催	12



「オレンジキャンペーン」と称した福島復興に取組む女性による農産加工品を販売するブースを設けました。アランマールの選手にも販売スタッフとして協力いただくなど、多くの方々との連携協働により、盛り上がりを見せたキャンペーンとなりました。

2020年度 活動報告

まちの賑わいづくりへ 小杉でイベントを開催

小林教養ゼミ

小林教養ゼミでは、「下条川夏の夕べ」のボランティア参加と、地元の小学生を招待した「クリスマス・パーティー」を開き、まちの賑わいづくりに向けた活動を行いました。

8月8日の小杉まちづくり協議会主催の「下条川夏の夕べ」では、体温計測やアルコール消毒などのお手伝いを行い、地元小杉の方々の地域愛を感じ、優しさに触れることができました。

12月19日の「クリスマス・パーティー」は、竹内源造記念館で開催しました。館内には小杉出身の職人・竹内源造による漆喰作品の「鍔絵」が数多く展示され、体験教室も開かれています。源造の代表作「名越の双龍」が見守る展示室で子供たちと楽しいひと時を過ごしました。



南砺市の富山干柿づくりの課題に対する 電子・情報工学的な解決方法の考察

高屋トピックゼミ

高屋トピックゼミでは、南砺市の「三社柿」で作られる「富山干柿」の生産において、課題となっていて、生産者の減少や異常気象を、電子・情報工学の技術を使って解決しようと、3つのグループに分かれて考えました。



グループ1ではカメラを利用した柿の自動傷判別を提案しました。傷の判別にAIを利用することで、作業の効率化ができると考えました。グループ2では柿の保存のための持ち運び可能な冷蔵庫を提案しました。冷蔵庫能とセンサを備えた装置が設置された部屋に合わせて冷蔵を行うことで、電気代が節約できると考えましたが、部屋の形状による冷却性能の差などが問題として挙げられました。グループ3では干柿の生産で重要となる、温度・湿度・換気の管理をセンサで行うことを提案しました。これにより効率的に、高品質な干し柿を量産できると考えました。

トピックゼミII I 県内企業見学を終えてI

本吉トピックゼミ

本吉ゼミでは、富山県機電工業会の方の講義、および県内企業の見学を通して、数値で表されたり、定義されたりする県内企業／産業の特徴を調査しました。

調査で収集した項目に対して「就職活動の際に考慮したい企業、職業、環境の特徴は？」および「就職活動の際に考慮したい富山県や県内企業／産業の特徴は？」という2つの問いを立て、ゼミ内での回答を収集しました。

収集した回答を性別や県内／県外出身者別に集計し講義、企業見学を通して得た気づきを、発表用ポスターおよびレポートにまとめました。

今後の進路選択に参考となる情報を得られたほか、県内就職のメリット／デメリットに対する学生と県内企業側の捉え方の違いを知ることができました。



SIS for 就活生

CCM
(Core Creative Meeting)



CCMでは、「SIS for 就活生」というアプリケーションを使い、富山県内での就職を定着させる活動を行いました。「SIS for 就活生」とは、富山県立大学生が就活に活用するためのアプリケーションです。「富山県に就職したい」と思う学生は、「県内出身」で約64%、「県外出身」で約9%でした。理由としては、富山県の企業に魅力を感じていないことが挙げられます。県立大学生は富山の企業を知らなすぎるのです。そこで、主に3つのコンテンツで学生に興味を持たせます。1つ目は県内企業の情報。2つ目はインターンなどのイベント情報。3つ目は懇親会や部活動の様子など会社の雰囲気や伝わる情報です。

とやま情報技術推進協会、富山県立大学と協力して投稿を行っています。

たかおかミニマムツアー

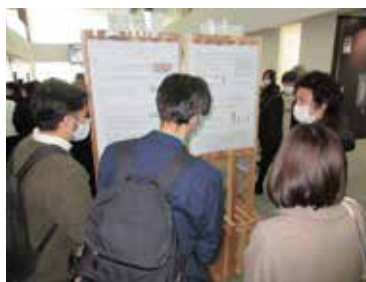
林教養ゼミ

林教養ゼミでは高岡市の関係人口創出を目標に3グループに分かれて活動しました。料理教室グループは、高岡で買えるハラル食材・高岡産の食材を使用し、オンラインで料理教室を開催しました。留学生をはじめとする外国人に高岡を知ってもらうことができました。マインクラフトグループは「高岡向陵高等学校」と協働し、「マインクラフト」を用いて、10年後の高岡市を再現しました。多くの学生に高岡市を知ってもらうきっかけを作ることができました。ホームページ作成グループはゼミ独自で高岡市のホームページ・LINE公式アカウントや、インスタグラムの作成をし、より分かりやすく簡単に高岡について情報を発信しました。ホームページアクセス数が300を超えるなど予想以上の影響がありました。



SDGsとわたし 誰一人取り残さない社会の実現と私の人生

中村専門ゼミ



世界共通目標であるSDGsを達成するために活動されている「PECとやま」と協働し、「SDGsトークカフェ」に参加して誰一人取り残さないことやまについて考えました。ひとり親、在留外国人、障害者に着目して現状、問題点、現在の活動を調査し、解決案を提案しました。ひとり親に関しては、就業や収入面に関する支援や事業の拡大がさらに必要であるということを示しました。在留外国人に関しては、日本語の不自由さと宗教による生活習慣の違いが問題点としてあり、日本語の不自由さの解決案としてやさしい日本語を使用することを提案しました。障害者に関しては、雇用率が低いことや一般の方との収入の差が大きいという問題点があり、より一層の理解や支援が必要であることが分かりました。

地域の健康診断データと レーザー運動計測データの関連分析

佐保研究室 (卒業研究)

佐保研究室では、椅子に座る運動を計測することで、不健康者の判別をすることを目的として、射水市内で実施された高齢者向けの体操教室イベントにて測定を行いました。

測定にはドップラーレーザーと呼ばれる装置を使用しました。これは、歩行や起立着座などの比較的遅い速度変化を計測することができる装置です。この装置を使用して椅子への転回着座運動を計測し、不健康者か判別するという測定を行いました。その結果、転回着座運動から得られたデータは認知症リスクや身体機能と関係があることが分かりました。また、現時点では転回着座動作のみで不健康者の判別は困難であることも分かりました。



「DEN-DEN」は伝統工芸の魅力(ストーリー)を、情報技術を生かして世界に届け、伝統工芸復活の成功事例を作ることを目標に活動している団体で、今は経済産業大臣が指定した伝統的工芸品の1つである高岡漆器に関する活動をしています。メンバーが小学生の時に教わった職人さんと10年越しの再会に縁を感じたことが、活動を始めたきっかけです。

DEN-DENの活動

DEN-DEN



12月には、高岡漆器の魅力に触れる制作体験教室を、高岡漆器組合と協働して実施しました。この体験会には、本学の学生とアランマーレ富山(女子ハンドボールチーム)のメンバーが参加し、高岡漆器の商品の見学や、漆器の蒔絵体験を通して、交流を図りました。参加者からは「完成までの大変さを痛感した」とのコメントが寄せられました。

滑川市の魅力発信第4弾

「ふるさと納税サイト」リニューアルで
滑川の特産品を全国にアピール

清水教養ゼミ

滑川市の移住促進に取り組み続けている清水ゼミ。4年目となる2020年度は、滑川市の魅力発信に加え、滑川市の税収UPにも取り組みました。12名のゼミ生は、「ふるさと納税サイト」「ふるさとチョイス」のリニューアルに挑戦しました。変更前のサイトは返礼品の基本情報のみ留まり、新規納税者の獲得にはさらなる魅力を発信していく必要があると考えました。そこで滑川市の16の事業者が提供する54品の返礼品を取材し、記事を刷新しました。また、プロのスタジオを借りて「映える」返礼品の写真を撮影しました。これらの結果、サイト公開直後の2週間で、前年と比べ、納税数が77件、納税額が105万円増加しました。想像以上の反響を得て手ごたえを感じるとともに、「これまで馴染みのなかった地域に貢献できた！」という喜びと、地域との協働の面白さを感じました。



富山市西町商店街の活性化について

— SNSによる街の魅力の情報発信 —

濱トビックゼミ



濱トビックゼミでは、富山市西町商店街と協力し、商店街の活性化に結び付くようSNSによる情報発信を行いました。店舗へインタビューを行い、インスタグラム、ツイッター、フェイスブックの3つのSNSを用いて編集・投稿を行いました。

インスタグラムでは、多くの人に見てもらえるようハッシュタグを使い、興味のある写真や文章になるよう心がけました。ツイッターでは、限られた文字数で興味を持ってもらえる文章を意識すること、紹介した店舗に関するハッシュタグをつけることなどの工夫をしました。フェイスブックでは、ゼミの活動の様子を発信し今活動していることを伝えること、他のSNSよりも詳細な情報を載せること、写真と文字を組み合わせて各店舗の情報を分かりやすくすることに配慮しました。

商店街の取材した店舗によって様々な試みをしていて、新しいことを知る良い機会になりました。

小矢部市の山間部における

大気環境観測

渡辺専門ゼミ

近年、東アジアからの大気汚染物質が北陸地方へ越境輸送されている問題が継続しています。2020年はCOVID-19の影響による大気汚染物質の増減が予想されます。そこで、ローカルな大気汚染発生源がない小矢部市山間部において、エアロゾル粒子、オゾン、二酸化硫黄の測定を行いました。

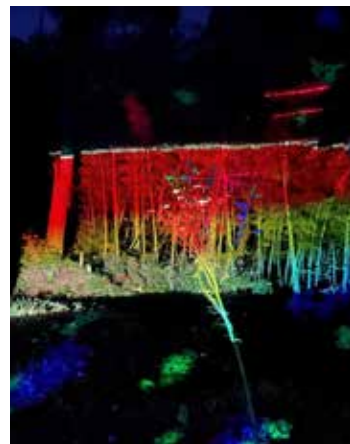
測定結果から、2月から4月にかけては、東アジアからの越境汚染、5月には、火山噴火による二酸化硫黄の影響が見られました。また、COVID-19による中国のロックダウンの影響により、2020年の冬季から春季の微小粒子個数濃度が2018、2019年の同時期と比べ低下しました。このことから、中国からのPM2.5が大幅に減少したことが分かりました。一方、粗大粒子では、個数濃度は増減していませんことから黄砂粒子の輸送量は変化していません。



里山再考プロジェクトの

アーカイブ展示

TIP



インタラクティブコンテンツや映像コンテンツを作成する団体「TIP」。今年度は、里山再考プロジェクトとして、呉羽山の保全をしているNPO法人「きんたろう倶楽部」と環境教育を研究する松本大学の田開寛太郎先生とともに、呉羽山でプロジェクト展示を実施しました。

学生が作成したプロジェクトマップピングを竹林に照射することで、幻想的な光景を創り出しました。これらの活動はウェブサイトやウェブVRを用いてアーカイブとして残すことで、プロジェクトについて今後たくさんの方に知ってもらえるような取り組みも行いました。

TIPは、今後もプロジェクト展示マップピングなどの作品を制作・公開展示を実施することで、呉羽山の魅力向上のために活動を続けます。

富山のクスリ

碓井教養ゼミ

碓井教養ゼミでは、富山と薬の関係を調べ、富山が医薬品の製造で有名になった理由を学ぶことを目的とした活動を行いました。

ゼミの学生らは、富山市民俗民芸村や広貫堂資料館へ足を運び、富山と薬の関係について調べました。また、富山の薬の歴史を調べることで、富山の薬が有名になった理由を学びました。昔の富山の売薬は、一般家庭に医薬品を置いておき、半年ごとの訪問の際に使われた分の代金を受け取るという「先用後利」の配置販売という形でした。この売薬方法は薬を常備することができると、現在のように病院やドラッグストアがすぐ近くにない時代では、とても便利でした。そのため、富山の薬は流行り、医薬品の製造で有名になったことが分かりました。



『たいやき世界一に挑戦!』の成功の方策

岩井専門ゼミ



岩井ゼミは、高岡市にある北辰工業所と、有志による「たいやき世界一に挑戦!」プロジェクトに大学の知見や装置などを活用してもらいました。

高岡向陵高校・未来探究コースの学生とも連携しました。全長1メートル、厚さ18センチメートルの世界一の大きさを誇るたいやきの焼き方をレシピ化し、誰でも作れるようにすることを目的に動画を撮り、周知できるようにしました。また、お正月番組「第33回柴田理恵認定ゆるゆる富山遺産」に認定されたのも成果の一つです。取材中に生地が無くなり「黄金レシピ」が崩壊して大慌てることもありましたが、みんなで協力し解決できたことが良い思い出です。課題解決のPDCAをたいやき作りを通して体験できました。

富山県の木材と加工技術を 利用した純国産弦楽器づくり

機械システム工学科 森崎稜磨 重昂輝 西川礼恩
寺島修 宮島敏郎

ギターやウクレレなどの木材を使用して製作する弦楽器では、音質の観点からローズウッドやハワイアンコア、シトカスプルースなどの輸入木材が多用されています。しかし、輸入木材は商取引に関する規制や国際情勢によって入手のしやすさが変わるため、「国産の木材で輸入木材と同じ音は出せないのか?」と考え研究に取り組みました。

我々は富山県産のスギの木を圧縮成型して製作した圧縮スギ材に着目し、これを用いてウクレレを製作し、ローズウッドで製作したものと比較しました。その結果、各弦を弾いた時の木材の振動特性や発生音は両者で類似したものとなりました。このため、富山県産のスギの木でも輸入木材の代用とできる可能性が見出されました。



2020年度のCOCOS

地域協働研究会COCOS



地域協働研究会COCOSは、富山県の地域が抱える課題などを、学生が主体的に地域の方々や協力して地域課題について話し合い、ユニークなアイデアや企画を通じて、課題解決をするとともに、富山県を盛り上げていこうと活動している学生団体のことです。

今年度の活動としては、コロナ禍でなかなか課外活動を行えませんでした。二つの活動を行いました。一つは、南砺市の方と協働制作中のSDGsを取り入れたボードゲームである「なんとSDGsボードゲーム」、もう一つは富山県のような場所を舞台にしたシミュレーションゲームである「COCOSノベルゲーム」です。どちらもまだ制作段階ですが、完成に向けて尽力しています。

学生団体活動紹介

日本の伝統を世界へ！「DEN-DEN」

日本の伝統を世界に伝える「DEN-DEN」は、生活様式の変化等によって売上げが伸び悩んでいる伝統的工艺品業界を、情報工学の技術を活用して活性化させることを目的に活動を行っている団体です。昨年5月から活動を開始し、SNSを活用した情報発信や、ビジネスプランコンテストへの出場、高岡漆器制作体験教室を高岡漆器協同組合と協働して開催するなどの活動を行ってきました。設立のきっかけはメンバーが、とある企画の中で小学校の頃に高岡漆器の指導をしていただいた職人さんと再会したことでした。職人さんの口から、高岡漆器の販売額が年々落ち込んでいること、後継者不足も重なって職人の数が減ってきていることを聞き、この課題を解決したいという想いが強くなりました。その想いに賛同し、伝統工芸や地域活性化、地域協働に興味関心のある有志が集まり、DEN-DENを立ち上げました。



そんなDEN-DENは昨年9月、第一回北陸ビジネスプランコンテストへの出場を皮切りとして本格的に活動を開始。活動の中で多くの方々との交流し、最近では県外の方からも注目していただけるようになりました。

現在は、DEN-DENの活動の中でご縁のあった方から依頼された高岡漆器の完成お披露目会などを企画中です。高岡の伝統工芸を成功事例に職人さんと共に伝統工芸の魅力を広めていくことを理念に掲げ、活動に取り組んでいます。

Web サイトはこちら！



〜協働した方々の声〜

教員

医薬品工学科 中島 範行 (地域協働推進チームリーダー・副学長)

大学教員として、5年生と6年生の児童を対象にした理科の実験を、県内の小学校で15年程前から年に数校で実施しています。小学校では、一人一人が実験を行う機会はなかなか授業時間で持てないので、児童さんや先生には好評です。

5年生の単元「もの溶け方」では、物質に水を加えてものが溶けたか否かを確かめます。溶けていない場合、どうすれば全部ものを溶かせるかが次の課題となります。教科書では、「温めること」でもものが溶けることを確認しますが、最近、「さらに水を加える」ことでもものが溶けると回答する児童が減ってきています。我々の時代は、水を加えてジュースの濃さを調節する粉ジュースがありました。したが、今はものを溶かすのに加える水の量はレシピに書いてありますので、足りなかった場合にどう対応するかを経験する機会が無いのかもしれない。経験することは非常に大切です。今の大人があたりまえに経験してきたことを、これからの子供達は経験する機会が無い時代になってしまうのではないかと危惧することがいくつもあります。例えば、「おつりや釣り銭」といったことは何年かしたら経験しなくなってしまうかもしれません。

世の中の変化はめまぐるしいものがあり、コロナ禍はその変化に拍車をかけています。時代やその変化に遅れない様について行かねばなりません。「変化させないで維持するものは何か」も合わせて考えておかないといけないと思っています。

教員

電気電子工学科 高屋 智久

コロナ禍中の地域協働授業ー人と人とのつながりを考える

2019年4月に富山県立大学に着任し、もうすぐ3度目の春を迎えます。着任当初から「自分は教育・研究を通してどのように富山に貢献できるだろうか?」と考えており、2020年前期に地域協働授業に取り組みました。協働先の代表の方が自分の言葉でお話される、地域にかける熱い思いを拝聴し、「どうか少しでもお役に立てれば!」と、協働への思いを新たにしました。

準備を重ね、いよいよ授業開始、というときに緊急事態宣言の発令となり、せっかく立てた計画を大きく変更しなければならなくなりました。学生が協働先を訪ねて直接お話を伺ったり、考えたことを伝えたり、作業を体験したりすることが

COCOS活動紹介① なんとSDGsボードゲーム



突然ですが、SDGsって聞くと、どんなイメージを持つでしょうか？「名前は聞いたことあるけれど、何をやるかは知らない」、「なんとなく難しそう…」といったイメージを持ってしまおう人が多いかと思いますが、今回のプロジェクトでは、誰でも楽しくSDGsについて学ぶことができるようにすることを目的に、「なんとSDGsボードゲーム」を南砺市と協働で企画しました。内容はすごろく形式で、ゲームの前半は止まったマスの指示に従いながらお金と人

材を集め、集めたお金と人材を使って、SDGsに係るプロジェクトを達成してその数を競います。子どもでも楽しめるような分かりやすい物を目指して制作しています。また、南砺市民同士でグループディスカッションを行う「なんと未来ミイティング」にファシリテーターとして参加もしました。ここで南砺市に関する情報を得て、ボードゲームにアイデアとして取り入れています。今後は、このゲームを用いたワークショップ等が開催できればと考えています。



できなくなったことが一番の痛手でした。新しく整えられた遠隔授業環境や電子メールを使い、どこまで協働先と学生がコミュニケーションをとることができるのか、模索しながらの授業となりました。たいへん困難な状況のもと、協働先の方々には好意的にご協力いただき、授業を履修した学生には真剣に協働に取り組んでいただけました。授業に関わられたすべての方に対し、ここに厚く御礼申し上げます。困難な状況を克服して少しでも人と人が新しく「つながる」ことができたのが、今回の授業の大きな成果だと考えています。私たちを取り巻く状況がどうなっていくのか分かりませんが、授業で得られた協働先とのつながりを、これからも維持し、強くしていけるよう尽力いたします。

地域

滑川市企画政策課 荒井祐紀

富山県立大学と取り組む滑川市の魅力発信

滑川市では、県立大学の皆さんと協働し、平成29年度から3年にわたって観光スポットや子育て施策、SDGsに取り組む企業など様々な角度から市の魅力発信に取り組んできました。令和2年度は、ふるさと納税で取り扱う特産品を通じて、滑川市の魅力を発信してもらおうと教養ゼミの1年生12名に特産品の取材と記事の作成を依頼しました。

事業者へのアポイントメントを取ることから始まり、現地での取材、特産品の写真撮影、紹介文の作成など、初めての経験ばかりで皆さん緊張していた様子でしたが、写真のアングルや文章の表現方法など学生ならではの観点も多く、取材へ同行した私にとっても学びの多い時間となりました。中には、アピールポイントが見えにくい特産品もありましたが、伝えるべき点をしっかりと洗い出し、こちらの要望に応えるべく懸命に推敲を重ねていただきました。私自身文章のプロではないため、どのように添削すればよいのか悩みましたが、学生の皆さんと切磋琢磨することでより良い記事に仕上げることができました。その結果、12月後半の寄附金額は昨年の1.2倍に増加。今まで閲覧数の少なかった特産品のアクセス数も増え、滑川市の魅力発信に繋がったと実感しています。

今回の事業が、学生の皆さんの社会経験の一助となり、ゆくゆくは滑川市と学生をつなぐきっかけとなれば幸いです。



COCOS 活動紹介② COCOS ノベルゲーム



新型コロナウイルスが猛威を振るった2020年。各地で飲食店の営業時間短縮や外出自粛が騒がれ、なかなか外出を楽しむことができませんでした。COCOSの活動も地域の方と関わるという性質上、これまでは外に出ての活動が多かったため、今年度はイレギュラーな年となりました。そんな中、発案されたのが、「COCOSノベルゲーム」です。ノベルゲームとは、小説のように登場キャラクターの会話を読み進め、その途中に出てくる選択肢から結末が変わるジャンルのゲームを言います。コロナ禍中であったことから、インターネットを活用して、富山県の魅力を知ってもらうことを目的として制作活動を開始しました。富山県のある大学に通う学生が、ゼミでの活動を通して、富山県の観光名所を巡りながら、仲間と仲良くなるという内容になっています。

今年度前半は、ストーリーの構成やゲーム制作に必要なソフト等の調査を行いました。秋ごろからは、新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきたので、少人数で感染対策もしっかり行いながら、実際の観光地に向いて、景色の撮影をしました。撮影した写真は、加工してアニメ風に仕上げたり、内容にふさわしいBGMを探したりと、ゲームの中身を詰めていきました。

この活動は、COCOS独自の企画のため、今後このゲームを利用し、地域と協働した新しい活動もできれどと考えています。



上の写真が
アニメ風に!



協働した方々の声

卒業生 生物工学科 杉山悠 (2021年3月卒業)

2017年から4年間、地域協働研究会COCOSとして活動し、3年目には代表を務めさせていただきました。杉山悠です。学生でありながら市民団体の方々、地域の企業の方々から、地域の魅力や課題について一緒に考え取り組む機会をいただきました。その中で自らが学生として活動するとき、一人の大人として活動するとき、さらに教える立場となり大人や学生を動かすときなど、立場が変わって考えることがガラッと変わることになりました。上手いかわないこともありながらもCOCOSの仲間や地域の皆様に協力いただき年々大きな企画に携われる団体に成長してきたと思います。コロナウイルスにより、COCOSが行ってきたこれまでの方法でのイベント開催が難しくなりましたが、こういふときこそ地域を盛り上げようと活動している方々と協働し、輪を広げることが重要だと思います。私自身、4年間で「これからどういふ社会に加わるか、もしくは作れるか」を考えてきましたが、これからはより身近に関われる射水市内で、会社員として社会に加わります。

最後の学生生活で多くの方々に関わらせていただき、様々なことを経験させていただいた地域と大学の皆様に感謝いたします。ここで経験したことを活かし、社会に出て地域と関わる時間を大切にしていきたいと思います。



卒業生 環境・社会基盤工学科 中田美雨 (2021年3月卒業)

4年間の大学生活を振り返り、地域協働研究会COCOSでは授業を受けることでは学べない社会勉強をたくさんさせていただきました。私が1番印象に残っているのは、3年次に代表を務めた際に行った脱出ゲーム企画です。この企画では射水青年会議所の方と協働で行いました。この企画で協働させていただいた射水青年会議所の方とは1年時から射水祭りやイッテQの企画など、他の企画でも協働させていただいていました。その縁があって脱出ゲーム企画でも協働していただき、成功できたと思っています。

私はこの活動を通して人と関わることの大切さ、コミュニケーションの大切さを感じ、また、協働先の方や後輩、企画に参加していただいたお客さんと接する



COCOS活動紹介 ③ オレンジキャンペーン

メッセージボード展 & スタンプラリー

3月2日～3月8日に射水市で開催されたオレンジキャンペーンに、COCOSも参加しました。新型コロナウイルスの感染対策を十分に考慮したうえで開催する必要があったため、キャンペーンの啓発・告知の仕方をCOCOSで工夫しました。それは、特設サイトを作成することで、インターネットでオレンジキャンペーンを広めていくというものでした。キャンペーン期間中には、SNSのアイコンに使えるオレンジキャンペーン用のアイコンフレームを配布したり、協働先のいみずJCやアランマーレをはじめ、本学の下山学長や射水市の夏野市長にビデオメッセージの撮影を依頼して特設サイトで公開しました。3月7日(日)には、クロスベイ新



湊でオレンジキャンペーンのイベントが開催され、COCOSもいみずJCの方々と協働でスタンプラリーを実施しました。スタンプは同時開催のマルシェや団体の展示コーナーなどの様々な場所に設置されており、様々な場所を巡ることでスタンプをGETできる仕組みにしました。これによりスタンプを集めながら楽しく色々なブースを回ってもらうことができました。また「女性への『ありがとう』メッセージボード展」という参加型の展示も行いました。身近な女性への感謝をメッセージカードに書いてそれらを組み合わせて大きな虹を完成させるという展示でした。イベント当日で173枚ものメッセージカードを書いてもらうことができ、虹の絵を完成させることができました!

ことで、コミュニケーション能力の向上ができたと感じました。さらに、地域協働研究会COCOSの様々な地域活動を通して富山県のことをよりよく知ることができました。4年生になって引退してからも、就職活動や人脈作りにおいてCOCOSで学んだことはとても糧になったと思います。就職活動では富山県庁のインターンシップや面接の際に富山県についての知識とコミュニケーション力はとても役に立ち、4年間活動を続けてきてよかったと実感しました。

地域

女子ハンドボールチーム アランマーレ事務局 立野未央

皆さんこんにちは。女子ハンドボールチームのアランマーレです。今年度、「高岡漆器」の体験と、「オレンジキャンペーン in 射水」がらばる女性をみんなで応援」を県立大学のみなさんと一緒にしました。

高岡漆器の制作体験では、県外出身選手は実物を見ることは初めてで、絵付けに夢中になっていました。また、大学生の皆さんと交流しながら制作することができ、とても楽しんでいました。富山の伝統工芸品を知り、学ぶことができた良い機会になったと感じています。

富山県立大学、射水市と連携した「オレンジキャンペーン」では、国際女性デー(3月8日)に合わせてSDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」のロゴカラーであり、アランマーレのチームカラーでもあるオレンジ色をモチーフとして、様々な啓発活動をしました。地域の方々と一緒にジェンダー平等について考えたり、交流したりすることができました。SDGsについても、アランマーレについても多くの人に知っていただくことができました。と感じられたキャンペーンになりました。

企画から始まり、準備、当日まで様々なことをCOCOSの皆さんと共に進めさせていただきましたことを本当に感謝しております。また、単発イベントにすることなく、これからも継続して活動していけたらと思っています。COCOSの皆さま、ありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしくお願致します。



令和2年度 地域志向教育・研究・学生自主プロジェクト採択一覧

本学では、学生が地域と主体的に関わり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく教員、学生による取り組みへの支援を行っています。今年度は、コロナウィルスの影響で応募・採択ともに例年より減少しましたが、教育・研究・学生自主プロジェクトの3枠で学内公募し、採択結果は下記の通りとなりました。

・地域志向教育プログラム

テーマ・概要	代表教員
「まち」を元気にするための学生主体の「イベント」の実施 —小杉旧町および万葉線における活動—	教養教育 教授 小林 一也
地域小学生のための英語教室（2020年度） —グローバル人材育成につながる英語教育支援—	教養教育 准教授 山崎 大介

・地域志向研究

研究課題	代表教員
地域の特産物を用いた商品開発	教養教育 教授 福原 忠
県内産スギ間伐材を用いた純国産弦楽器の開発 (音響特性の解明と制御・設計手法の確立)	機械 准教授 寺島 修
小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測 —大気汚染物質の原因解明と地域への情報提供—	環境・社会基盤 准教授 渡辺 幸一

・学生自主プロジェクト

テーマ	学生団体・代表者
富山県の大学生の県内定着の促進	CCM (Core Creative Manager) 電子・情報工学科 4年 寺田 和真
SNS・Web サイトを用いた高岡漆器の認知度向上戦略	DEN-DEN 情報システム工学専攻 1年 山田 大成
男女平等社会への啓発（オレンジキャンペーン）	地域協働研究会COCOS 知能ロボット工学科 3年 山浦 稜太
SATOYAMA でのプロジェクションマッピングとアーカイブ作成	TIP 知能ロボット工学科 3年 栗田 善規

地域協働研究会COCOSとは？

COCOSとは、富山県立大学が設置した学生団体です。地域が抱える課題を、地域の方々と対話する中で探り出し、地域の方々と協働しながらその課題解決を目指して活動しています。インターネット等で活動について情報発信しているので、フォロー＆応援お願いします！

Facebook



Web site



2020年度地域協働授業成果発表会

今年度の成果発表会は、2021年1月21日（木）10団体、22日（金）6団体がポスターセッション形式で発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など約170名の参加がありました。

【第1日目】1月21日（木）

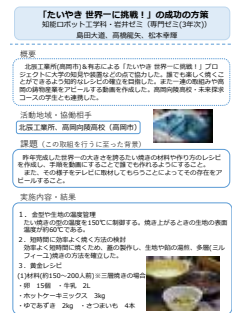
- ① 「滑川市の魅力発信第4弾
－2020年は『ふるさと納税サイト』リニューアルで滑川の特産品を全国にアピール－
教養ゼミ（教養教育 清水 義彦 准教授）
- ② 「高岡市関係人口創出のためのホームページ作成とSNSの活用」
教養ゼミ（教養教育 林 智 講師）
- ③ 「まちの賑わいづくりへ小杉でイベントを開催」
教養ゼミ（教養教育 小林 一也 教授）
- ④ 「富山のクスリ」
教養ゼミ（教養教育 碓井 エリザベス 講師）
- ⑤ 「SDGsとわたし：誰一人取り残さない社会の実現とわたしの人生」
専門ゼミ（環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授）
- ⑥ 「『たいやき世界一に挑戦！』の成功の方策」
専門ゼミ（知能ロボット工学 岩井 学 教授）
- ⑦ 「小矢部市の山間部における大気環境観測」
専門ゼミ（環境・社会基盤工学科 渡辺 幸一 教授）
- ⑧ 「日本の伝統を世界に伝える『DEN-DEN』」
DEN-DEN
- ⑨ 「2020年度のCOCOS」
地域協働研究会COCOS
- ⑩ 「SIS for 就活生」
Core Creative Manager（CCM）

－ 出展ポスター例 －

清水教養ゼミ



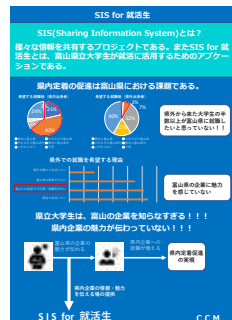
岩井専門ゼミ



【第2日目】1月22日（金）

- ① 「地域の健康診断データとレーダー運動計測データの関連分析」
卒業研究（知能ロボット工学科 佐保 賢志 講師）
- ② 「富山市西町商店街の活性化について－SNSによる街の魅力の情報発信－」
トピックゼミ（教養教育 濱 貴子 講師）
- ③ 「日本の伝統を世界に伝える『DEN-DEN』」
DEN-DEN
- ④ 「2020年度のCOCOS」
地域協働研究会COCOS
- ⑤ 「SIS for 就活生」
Core Creative Manager（CCM）
- ⑥ 「里山再考プロジェクトのアーカイブ展示」
TIP

CCM



DEN-DEN



ポスター

- 「南砺市の富山干柿づくりの課題に対する電子・情報工学的な解決方法の考案」
トピックゼミ（電気電子工学科 高屋 智久 講師）
- 「トピックゼミ：県内企業見学を終えて」
トピックゼミ（知能ロボット工学科 本吉 達郎 准教授）

COCOS活動紹介④ LINKtopos 2020

9月26日(土)、27日(日)に、LINKtoposという学生大会が行われました。

この大会は、全国の公立大学生が一堂に会して、「防災」というテーマについてワークショップや講師の方のお話を聞くことで、学生同士交流を深めることを目的に毎年開催されている行事です。今年度は、コロナウイルスの影響もあり、オンラインでの開催となりました。今回は、岡山の防災に関する課題について講演を聞いたうえで、自分の生活する地域が抱える共通点を探り、今後の避難所運営の在り方について、それぞれ「性別」「世代別」「地域別」の3つのテーマに対して大学生ができることをグループごとに考えて提案するというを行いました。

発表では、SNSを活用した女性のための避難生活支援アプリの開発や、世代ごとに抱える防災意識の格差を埋めるためのイベント、地域住民の信頼関係を構築するための防災まち歩きなど、グループごとに個性のある発表となり、オンラインとは思えないような充実した2日間となりました。



ファシリテーション研修

学生がCOCCTA(※)を務めるにあたって必要な様々なスキルを習得する研修を12月21日に開催しました。講師には株式会社たがやすの鈴木耕平さん、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)の堺勇人さんのお二人をお迎えし、ファシリテーションとSDGsについて学びました。

まず、堺さんからSDGsについての講話があり、17のゴールや策定に至った背景などの大枠の説明を受け、混在する様々な社会課題の解決に向けては、対話による取組みが大事になることを聞きました。次に、そのようにSDGsの中でも重要とされる対話を中心としたファシリテーションについて、鈴木さんから様々なワークの体験も盛り込まれたレクチャーを受けました。ファシリテーションの基本、ファシリテーターの役割、必要なスキルなどについてスライドを用いた説明を聞いた後、実際に「聞く・見る・応じる」ことを、対話を通して実践するワークを体験しました。参加者は、組んだパートナーとの間で、伝達の齟齬があったり、そもそも伝えることすら四苦八苦したりしながら、対話の大切さを学んでいました。

参加者からは、聞く側の聞き取る力の大切さを実感する感想が多くを占め、それぞれに、自身の現場で今後活かしていきたいという前向きなコメントも多く寄せられました。



※COCOSが務める地域協働授業のTA (Teaching Assistant)

挨拶

2020年度より地域協働コーディネーターとして着任しました神村佑です。

静岡で生まれ育ち、大学から上京した私にとって、富山の地は未開、また初めての日本海側での暮らしです。新入生のようにワクワクした気持ちで移住してきましたが、コロナ禍での活動となり、いろいろと制限がかかっているのは残念なところですね。思い描いていたフィールドワークと称した食べ歩き(呑み歩き?)も、なかなか果たせておらず…。とは言っても、その中で如何に工夫してできることを増やしていくか、新たに挑戦する幅が広がっただけです。これまでの経験を活かし、地域と本学のために精一杯力を尽くしていきたいと思えます。皆さま、どうぞよろしくお願ひします。



地域と県大。「地」と「知」でつながろう!

スイチオン!
富山県立大学地域協働事業

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

http://www.pu-toyama.ac.jp/coc/
〒939-0398 富山県射水市黒河5180

(中央棟 1階 N-103)
TEL:0766-56-7500 (内線 1255) FAX:0766-56-8022

E-mail:coc1@pu-toyama.ac.jp

編集: 地域協働研究会 COCOS 発行: 令和3年4月

